株式会社大泉製作所
（証券コード:6618）

会社説明資料

2021年6月10日

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

1. 会社概要

2. 2021年3月期(20年度)業績

3. 2022年3月期(21年度)業績予想

4. 中期事業計画(21-23年度)

会社概要

OHIZUMI

会社名	：	株式会社大泉製作所
事業内容	：	サーミスタを利用した温度センサ等電子部品製造及び販売
所在地	：	（本社）埼玉県狭山市 （製造拠点）青森県、中国・東莞市、タイ・チョンブリー県 （営業拠点）東京、愛知、京都、上海、シュツットガルト
設立	：	1944年3月
主要株主	：	株式会社フェローテックホールディングス （2021年3月末時点）
従業員数	：	グループ合計1，525名（2020年3月末時点）
関連会社	：	（国内）八甲田電子株式会社、センサ工業株式会社 （海外）東莞大泉傳感器有限公司、OHIZUMI MFG(THAILAND)
役員構成	：	代表取締役会長　後藤 英恒 代表取締役社長　佐分 淑樹 取締役　鶴本 貴士 取締役　坪　勝彦 社外取締役　小磯 孝二　（2021年3月末時点）

大泉製作所グループは、

革新的で高品質なサーミスタを通じて

地球環境と人々の快適な暮らしに貢献し、

世界中で信頼される企業を目指します。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

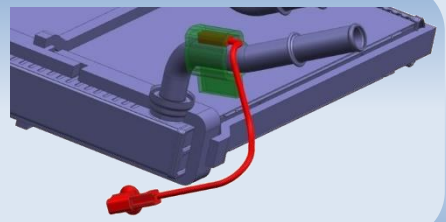
会社概要（主な製品用途）

OHIZUMI

■革新的なサーミスタで 地球環境、快適な暮らしに貢献

■自動車部品事業

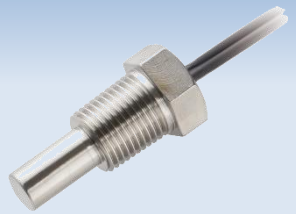
注力領域
- 二次電池用
- 熱マネジメント用
- モーター用



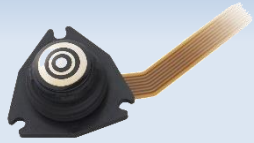
既存領域
- カーエアコン用
- クーラント用
- エンジン吸気用　燃料用　その他

■空調･カスタム部品事業

注力領域
- 室外機高温熱交用
- 室外機吐出管用
- 工作機械用

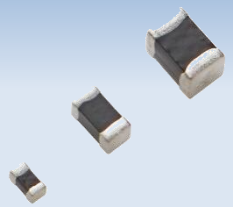


既存領域
- 室外機外気用、室内機用
- 家電住設用
- 医療機器用　鉄道用　その他



■エレメント部品事業

注力領域
- 光通信用
- パワーモジュール用



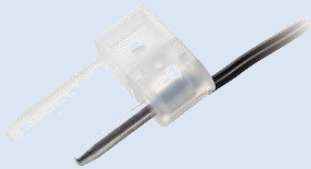
既存領域
- 車載機器用　産業機器用
- 家電住設用　医療機器用　その他

会社概要（自動車用温度センサの生産実績）

OHIZUMI

■長期にわたり高シェアを維持する既存領域製品

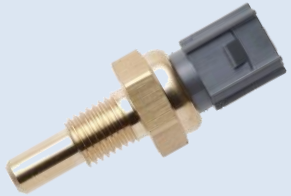
■カーエアコン用温度センサの19年度販売実績



33百万個	世界自動車販売台数 92百万台	推定シェア 36%

出所　FOURIN_2020年8月

■クーラント用温度センサの19年度販売実績



21百万個	世界自動車販売台数 92百万台	推定シェア 23%

出所　FOURIN_2020年8月

会社概要（生産工程フロー）

OHIZUMI

■素体からセンサ完成品までグループ内で一貫生産、グローバル市場へ

グローバル顧客

エレメント製品

温度センサ製品

セラミック半導体新工場

セラミック半導体工場

十和田工場（日本）

緻密な焼結体の技術

素子加工工場

八甲田電子（日本）

微細加工技術

年間約2.6億個

組み立て工場

センサ工業（日本）
東莞大泉傳感器有限公司（中国）
OHIZUMI MFG（THAILAND）

高品質製品の組立技術

年間約2.1億個

主要な取引先

■ 自動車部品は国内外のTier1メーカー、
空調・カスタム部品は家電メーカーや工作機メーカーが主要顧客

（50音順、敬称略）

会社の強み

OHIZUMI

ニッチ市場 リーダー	■ 安定成長する車載用温度センサで世界トップクラスシェア ■ 空調機需要が増加中のアジア地域で高シェアを獲得
優良な 顧客基盤	■ 自動車部品：デンソー、プライムプラネットエナジー、矢崎部品、BOSCH、 Mahle-Behr、Vitesco等 国内外多くのTier1メーカーとの取引 ■ 空調用：ダイキン、三菱電機等
高い 技術力	■ 素材R&Dと製造技術による高品質のサーミスタ （セラミック半導体素子） ■ 顧客との共同開発を可能とする高い設計技術

1. 会社概要

2. 2021年3月期(20年度)業績

3. 2022年3月期(21年度)業績予想

4. 中期事業計画(21-23年度)

20年度業績　ハイライト

OHIZUMI

前期比では減収減益も、売上回復と合理化で予想比大幅改善

【第4四半期（2021/1月～2021/3月）】

- 車両電動化推進による需要増と市況回復で全事業とも前年同期比増収
- 売上増と合理化効果等により収益性も向上
- 四半期実績では売上、利益ともに過去ピークの水準

【通期（2020/4月～2021/3月）】

- 売上は上期の大幅減を下期の急回復で挽回、前期比▲6.0%
- 減収により前期比では減益となるも、受注増加による稼働率上昇で固定費を吸収、前回公表予想を大幅に過達
- 自己資本比率は26.5%に向上（前期比+3.8ポイント）
- 期末配当金は1株当たり8円を継続予定

20年度業績　サマリー

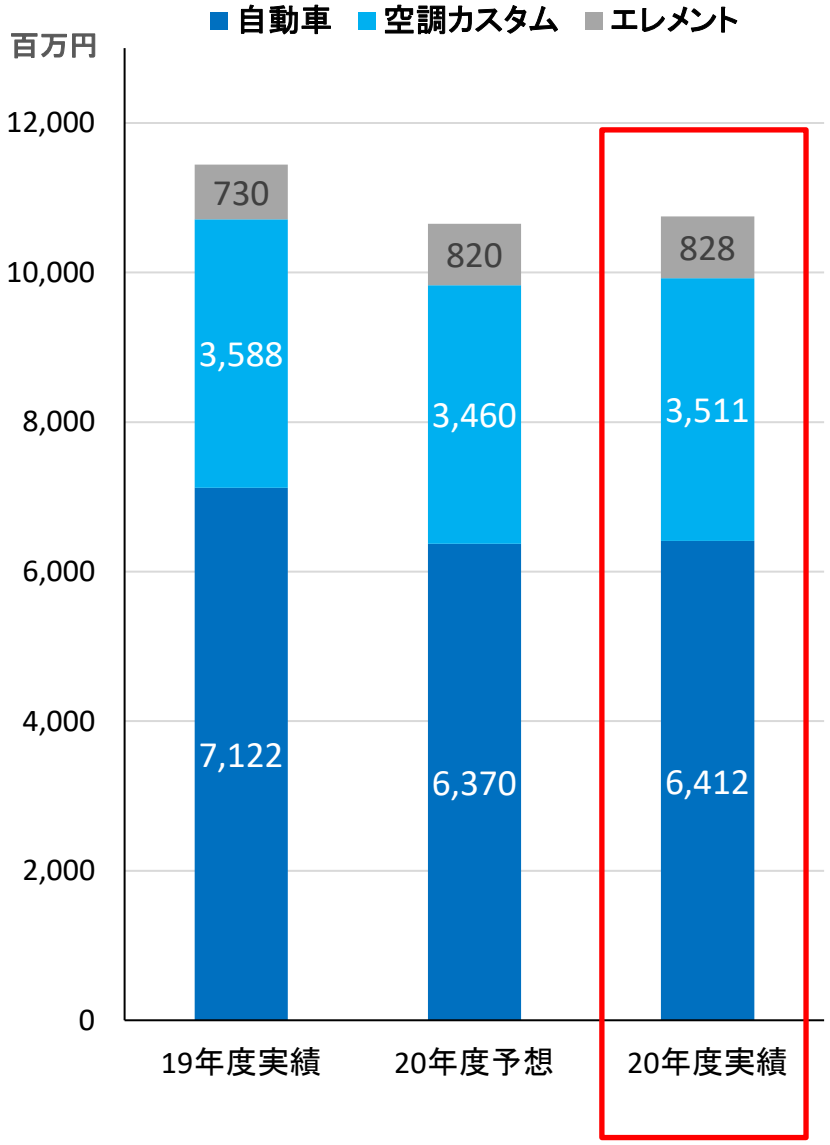
OHIZUMI

単位：百万円

	19年度		20年度					
	実績	売上高比	予想	売上高比	実績	売上高比	前期比	予想比
売上高	11,441	100.0%	10,650	100.0%	10,752	100.0%	▲6.0%	＋1.0%
営業利益	465	4.1%	180	1.7%	314	2.9%	▲32.4%	＋74.9%
経常利益	393	3.4%	130	1.2%	289	2.7%	▲26.5%	＋122.8%
当期純利益	220	1.9%	20	0.2%	224	2.1%	+1.6%	―

※20年度予想は2021年2月発表の数値

20年度　事業別売上高(通期)

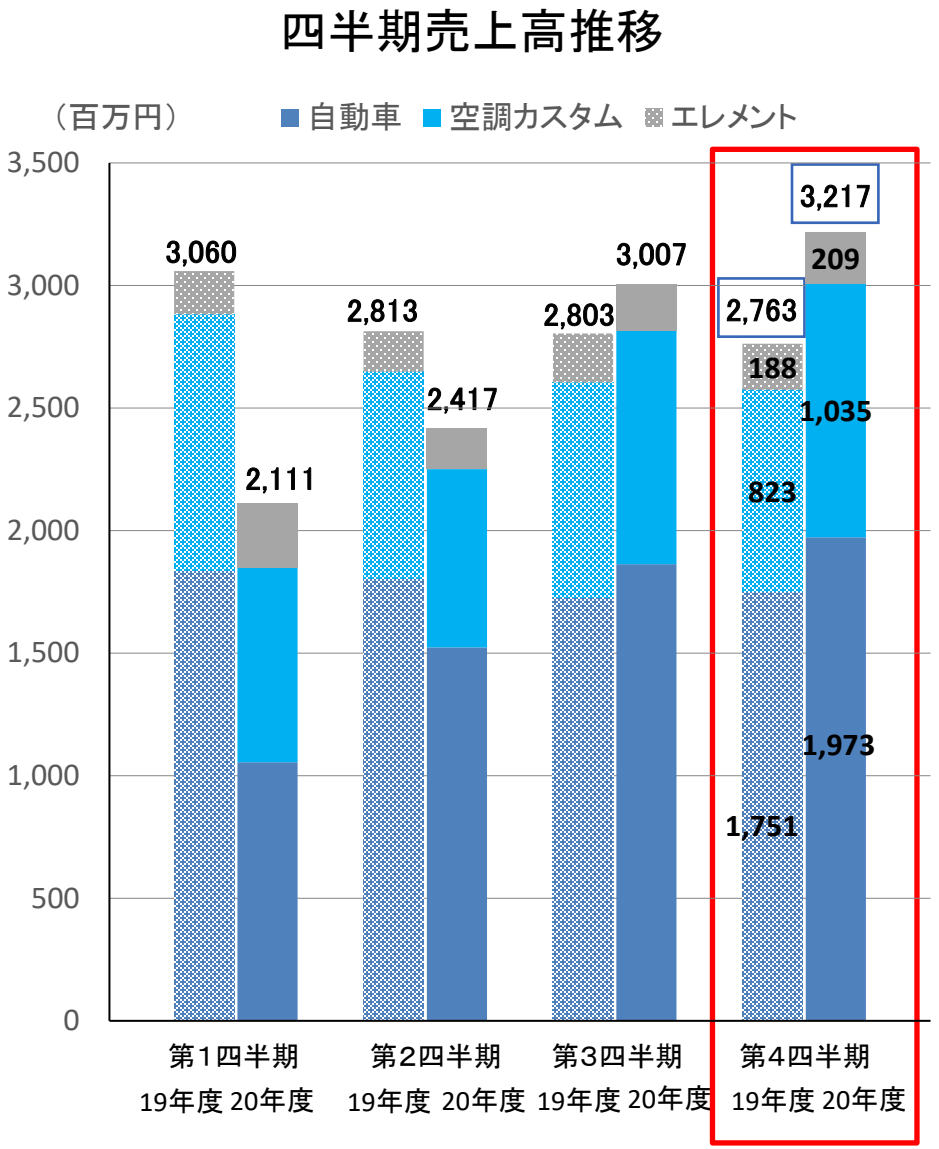


事業	前期比（百万円）	増減率	通期コメント
全体	▲689	▲6.0%	● 主力の自動車・空調が上期大幅に減少、下期急回復も通期では減
自動車	▲710	▲10.0%	● 既存品＊は上期の大幅減により前期比▲13% ● 電動化領域は納入の本格化により前期比+25%
空調カスタム	▲77	▲2.2%	● 中国市況の好調と日本、欧米の在宅需要等で下期回復、通期では前期比微減
エレメント	+98	+13.5%	● 光通信用は需要増と顧客の当社製品シェアアップにより前期比+73%

＊　既存品：カーエアコンやエンジン領域用の温度センサ

20年度　事業別売上高(四半期)

OHIZUMI



事業	前年同期比（百万円）	増減率	第4四半期(3か月)コメント
全体	+454	+16.5%	● 中国の回復トレンド伸長に加えその他地域も回復 ● その結果全事業で増収
自動車	+222	+12.7%	● 既存品＊は中国、ASEANの生産増により前年同期比+9% ● 電動化領域は納入本格化で前年同期比+47%増加
空調カスタム	+212	+25.8%	● 中国市況の好調や在宅需要により日本、欧米向けが増加
エレメント	+21	+11.0%	● 光通信用は顧客在庫調整等により前年同期比+11%

＊　既存品：カーエアコンやエンジン領域用の温度センサ

20年度　四半期業績推移

OHIZUMI

- 第1、第2四半期は主力の自動車・空調が大幅減収
- 第3四半期以降は主力製品の急回復と電動化領域の本格化により前年同期を過達
- 第4四半期は売上、営業利益ともに過去ピーク

単位：百万円

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		売上高比		売上高比		売上高比		売上高比
売上高	2,111	100.0%	2,416	100.0%	3,007	100.0%	3,217	100.0%
自動車	1,053	49.9%	1,522	63.0%	1,863	61.9%	1,973	61.3%
空調・カスタム	795	37.7%	727	30.1%	953	31.7%	1,035	32.2%
エレメント	262	12.4%	166	6.9%	190	6.3%	209	6.5%
営業利益	▲57	−2.7%	▲28	−1.2%	147	4.9%	252	7.8%
経常利益	▲27	−1.3%	▲28	−1.2%	97	3.2%	247	7.7%
四半期純利益	▲36	−1.7%	▲37	−1.5%	70	2.4%	228	7.1%

1. 会社概要

2. 2021年3月期(20年度)業績

3. 2022年3月期(21年度)業績予想

4. 中期事業計画(21-23年度)

21年度業績予想　ハイライト

OHIZUMI

- **中計に繋げる期間と位置づけ、将来に向けた成長投資を再開**
- **売上はCOVID-19前に回復も、利益率は前期並みにとどまる**

【売上】

- 全ての事業で前期比増収、COVID-19前の水準を見込む
- 車両電動化の推進により電動化領域の売上が伸長
- 光通信用エレメントは需要増加に向けた拡販に注力

【収益】

- COVID-19影響で抑制していた成長投資を再開
  ➢「ヒト」:組織力強化　➢「モノ」:コスト競争力強化、デジタル化推進
- 上記によるコスト増により営業利益率は20年度実績と同水準
- 期末配当金は1株当たり8円を継続予定

21年度業績予想　サマリー

OHIZUMI

単位：百万円

	20年度		21年度		
	実績	売上高比	予想	売上高比	前期比
売上高（新会計基準）			11,170		＋3.9%
売上高（旧会計基準）	10,752	100.0%	12,100	100.0%	＋12.5%
営業利益	314	2.9%	345	2.9%	＋9.6%
経常利益	289	2.7%	310	2.6%	＋7.0%
当期純利益	224	2.1%	235	1.9%	＋4.7%
為替レート（US＄）	106.10		105.00		

※1　2021年度より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、21年度の業績予想は当該基準（有償支給取引に係る売上高の純額表示等）を適用した後の金額で公表しております。

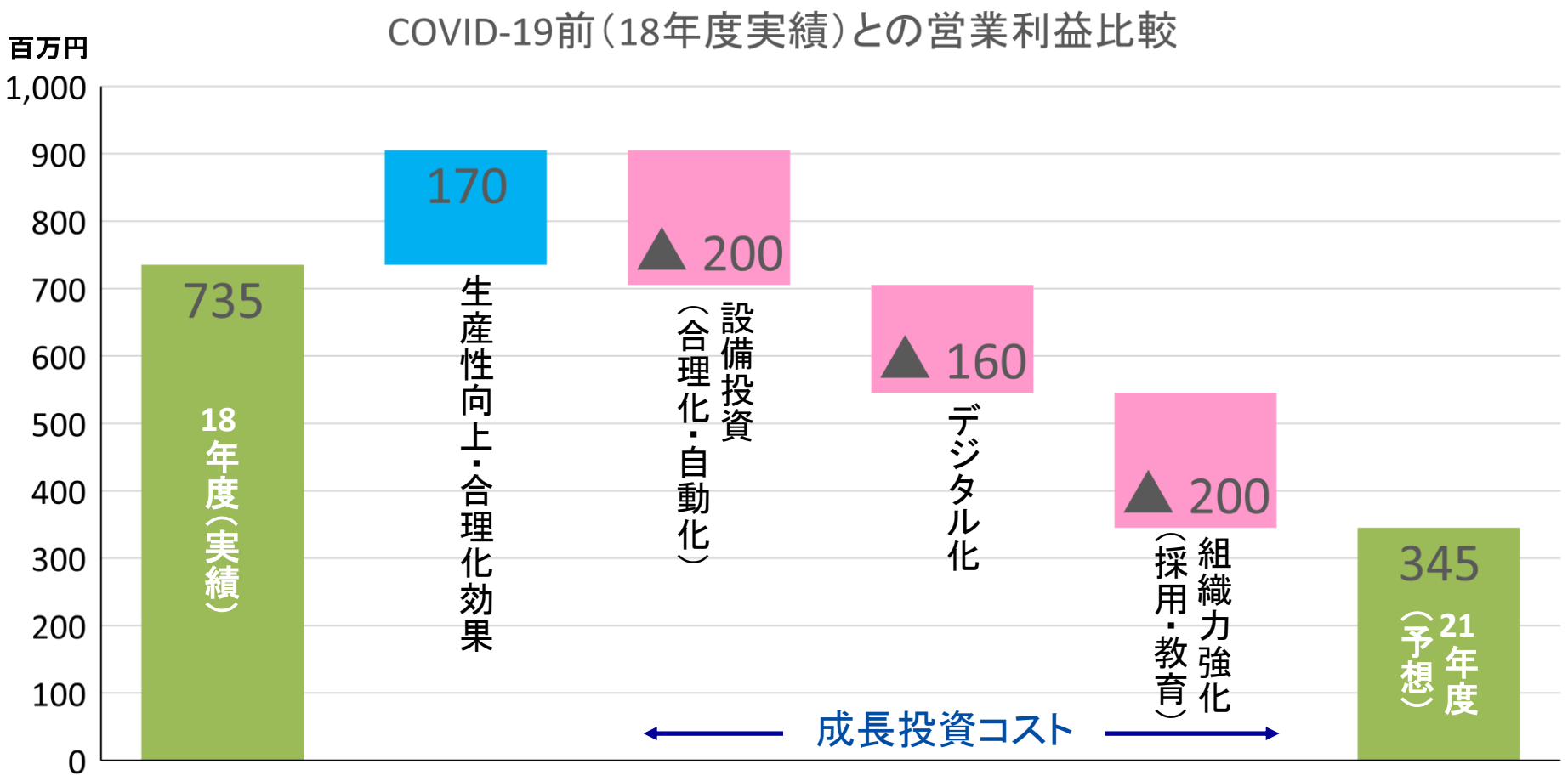
※2　2021年度の各利益の売上高比は、旧会計基準による売上高を100%として記載しております。

21年度業績予想　成長投資によるコスト増

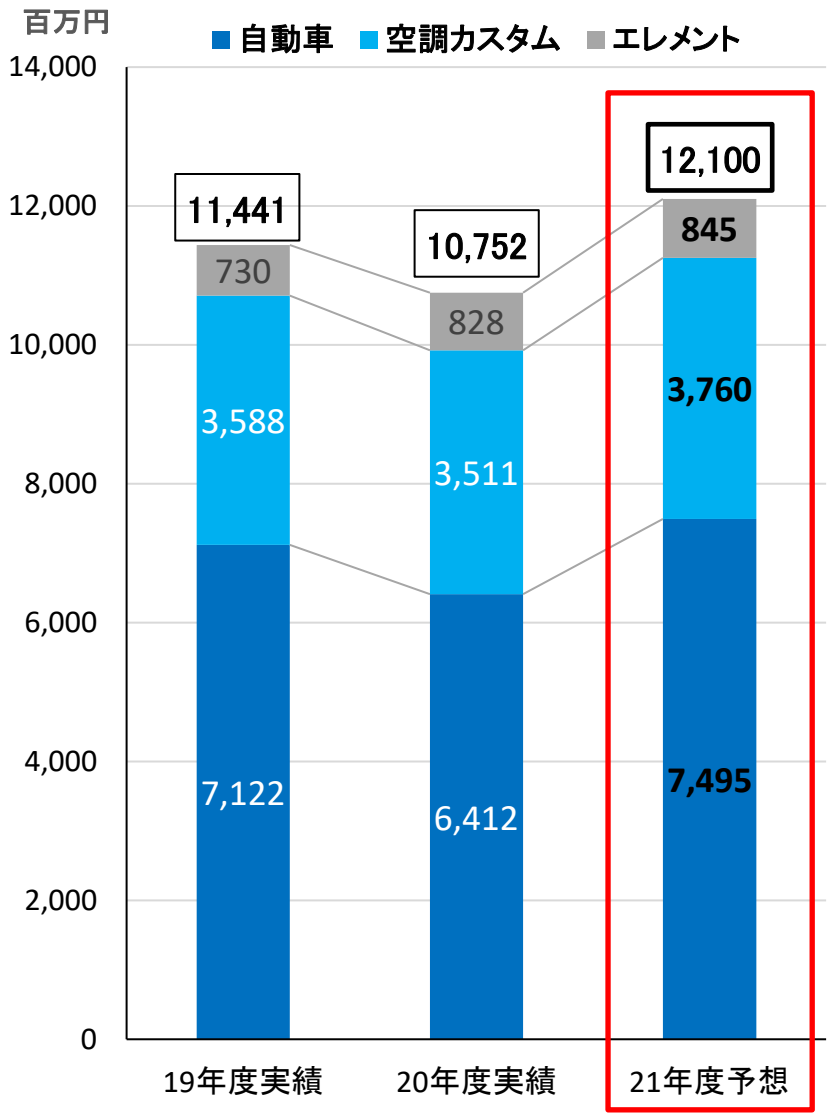
OHIZUMI

■ 19年度、20年度はCOVID-19の影響を受けたため、COVID-19前（18年度）と比較

- 18年度実績　：　売上高　124億円　営業利益　735百万円
- 21年度予想　：　売上高　121億円　営業利益　345百万円（売上高は旧基準による）



21年度業績予想　事業別売上



事業	前期比（百万円）	増減率	通期コメント
全体	+1,348	+12.5%	● 全事業ともCOVID-19前水準に回復、電動化領域の売上増加により増収
自動車	+1,083	+16.9%	● 電動化領域は車両電動化推進により数量増、前期比+80%
空調カスタム	+248	+7.1%	● 空調は主要顧客のシェアアップと新規受注獲得
エレメント	+17	+2.1%	● 光通信用は顧客の在庫調整等により前期比微増

※　21年度予想は20年度以前の実績と同一の基準で算定、記載しており、新基準による売上高予想は11,170百万円となります。

1. 会社概要

2. 2021年3月期(20年度)業績

3. 2022年3月期(21年度)業績予想

4. 中期事業計画(21-23年度)

中期(21-23年度) 事業計画“挑戦2023”

OHIZUMI

■経営目標(2023年度)

売上高	**140億円**(旧会計基準による。新会計基準:130億円)
営業利益率	**8.0%** (旧会計基準による。新会計基準:8.7%)

■事業戦略

【成長・拡大】

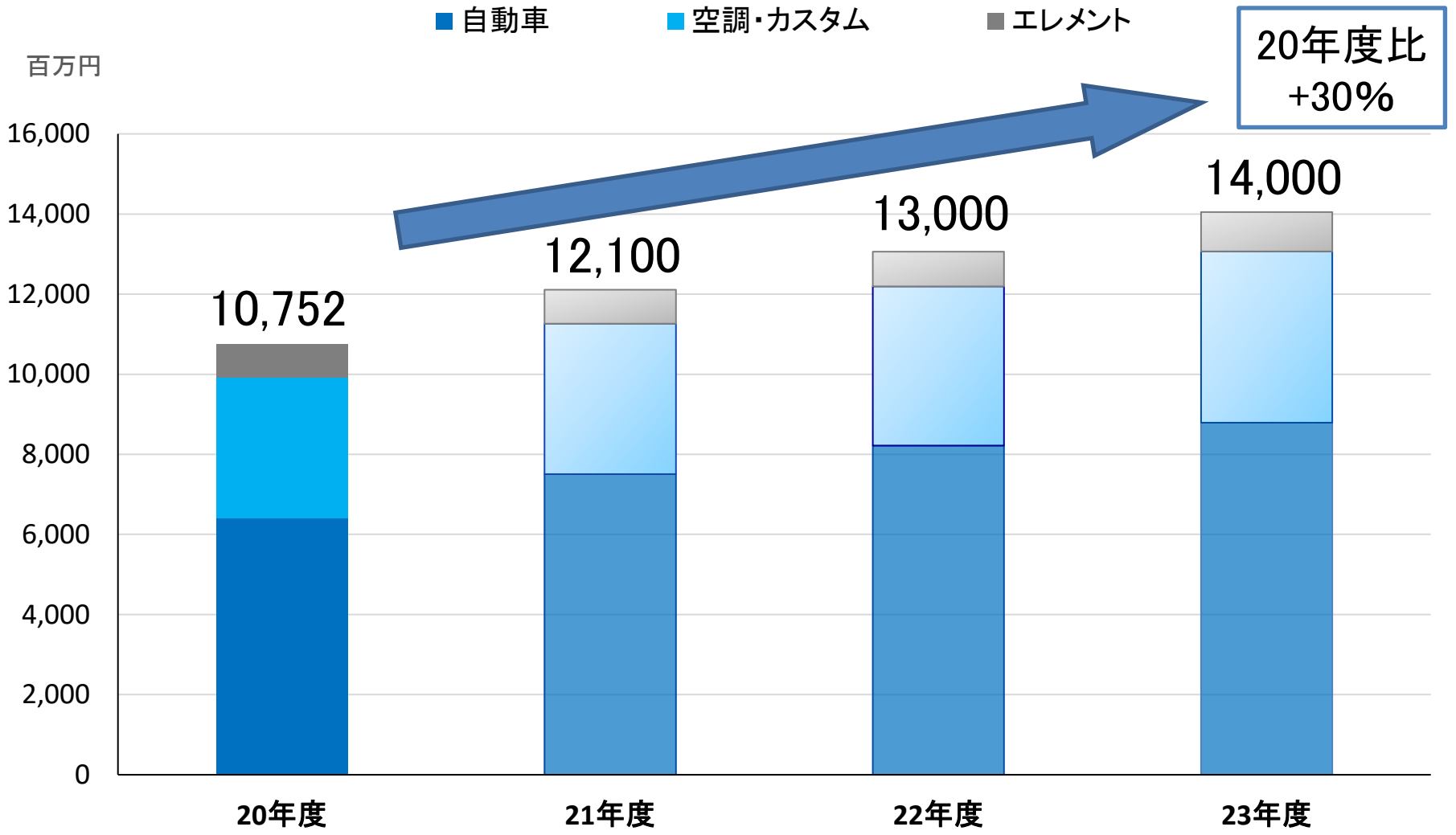
- カーボンニュートラル社会の到来に向けて電動化領域の二次電池用・熱マネジメント用・モーター用を強化
- DX推進を支える光通信用に注力

【企業体質強化】

- 合理化、自動化による生産コスト低減で製品競争力を向上
- デジタル化により間接部門を含めた全社の生産性を向上
- 組織、人材力強化に向けた人材確保と育成

中期(21-23年度) 売上高

OHIZUMI



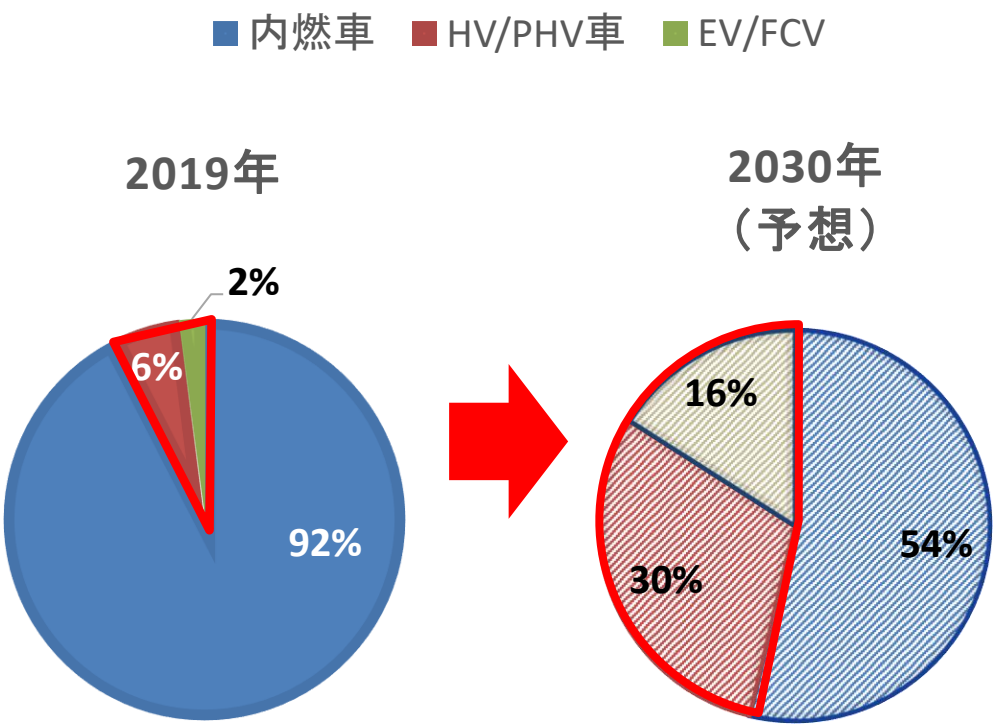
※ 21年度以降の売上高は20年度以前の実績と同一の基準で算定、記載しております。
（新基準：21年度 11,170百万円、22年度 12,000百万円、23年度 13,000百万円）

車両電動化でサーミスタ需要が拡大

OHIZUMI

■ 脱炭素社会に向けて車両電動化が進む

動力別自動車生産台数

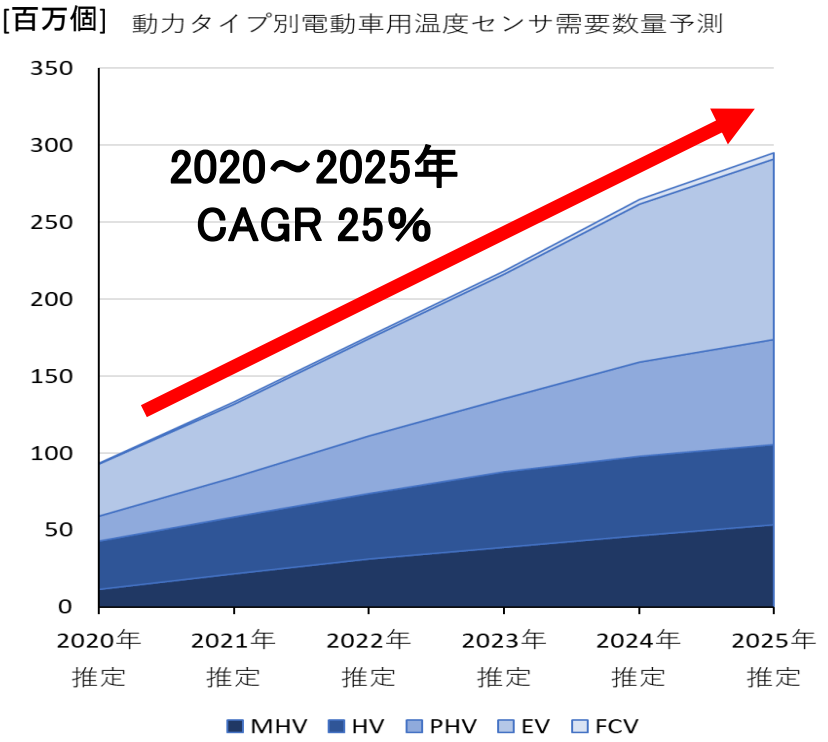


電動車比率は　8%　→　46%

＊出所：2020年8月FOURIN社及びMARKLINESデータによる当社試算

動力タイプ別サーミスタ搭載数（個/台）

内燃車	電動車	
	HV/PHV	EV/FCV
10～15	15～30	20～25



＊出所：2021年1月富士キメラ総研の生産台数予測による当社試算

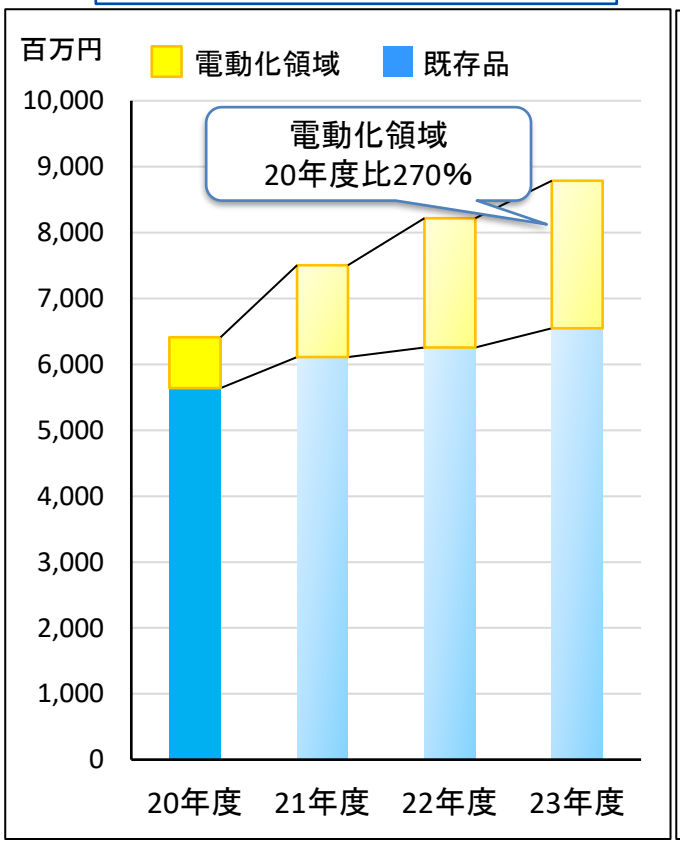
中期(21-23年度) 事業別売上高と注力分野

OHIZUMI

- 21年度は全ての事業で20年度比増収となる見込み
- 23年度にかけて各注力分野の売上を拡大し、売上高140億円の達成を目指す

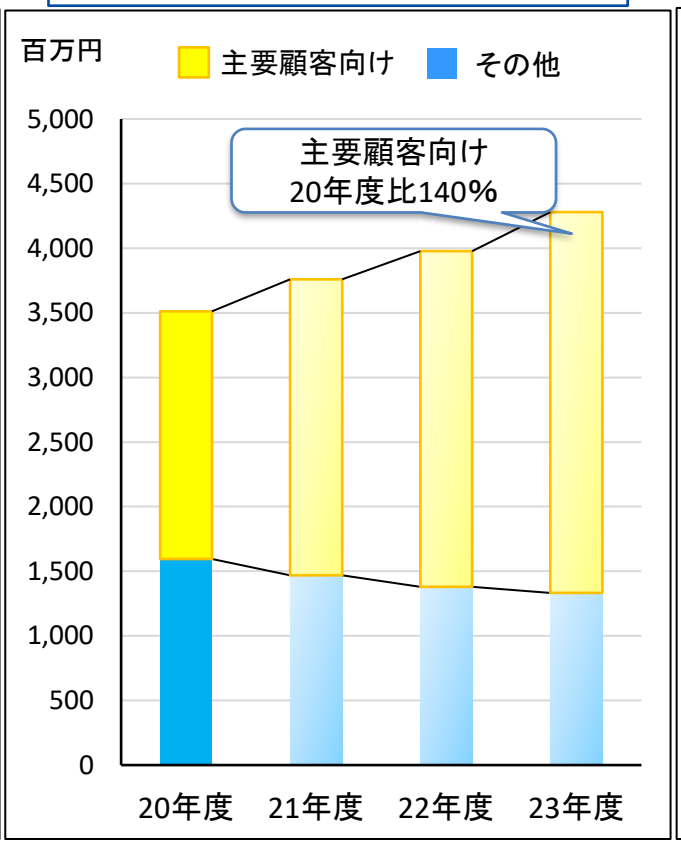
自動車

注力分野：電動化領域



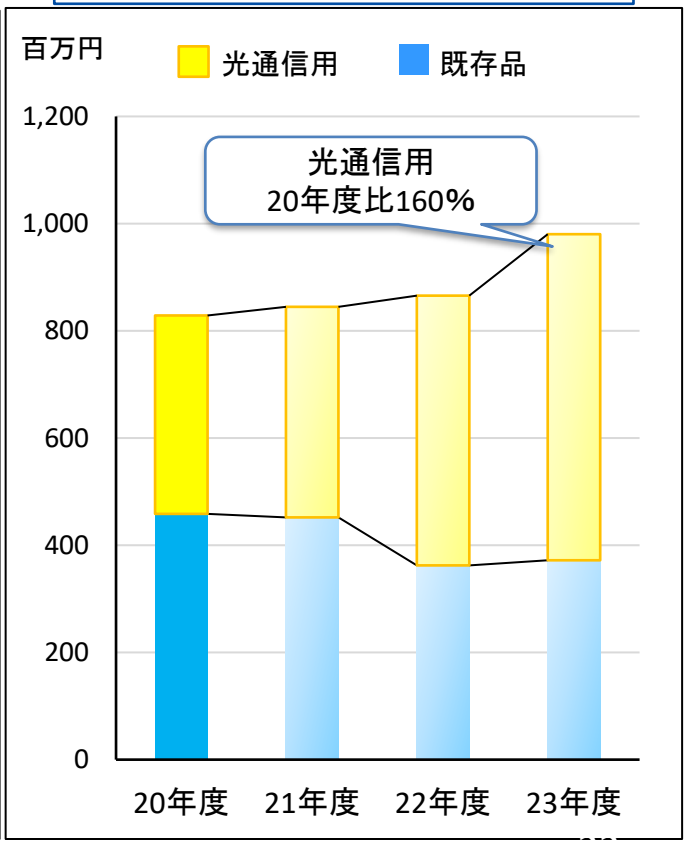
空調・カスタム

注力分野：主要顧客向け



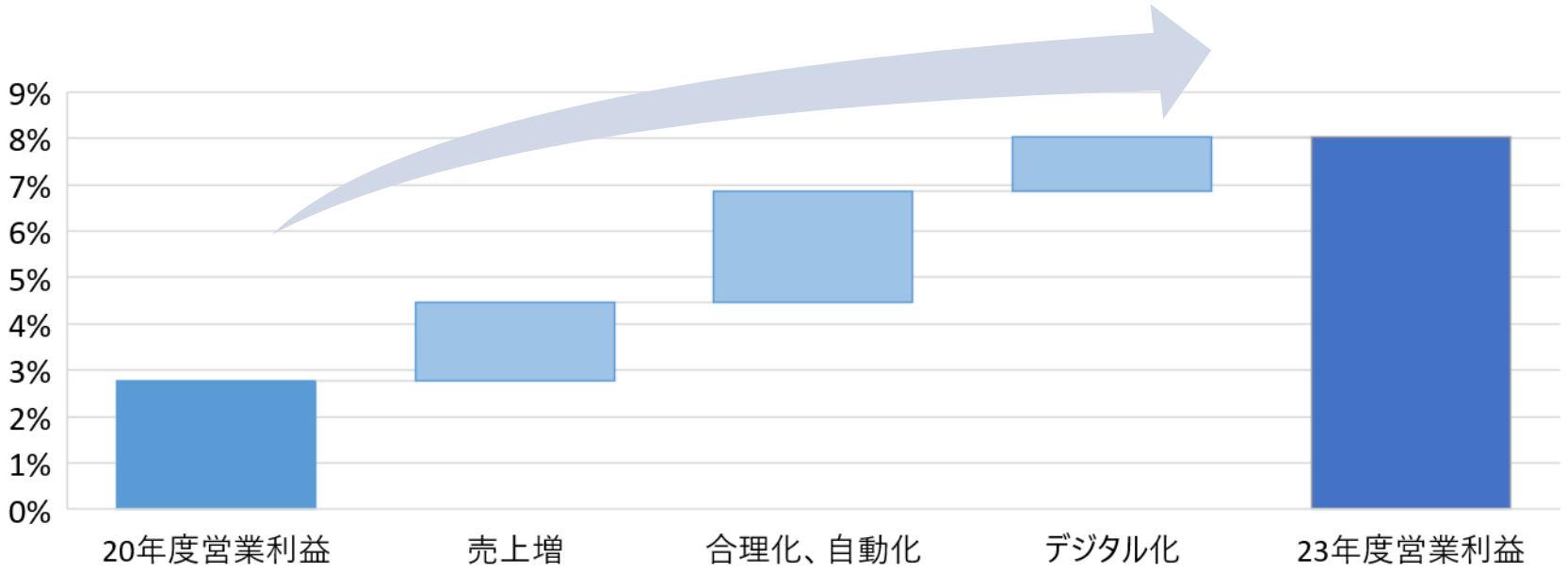
エレメント

注力分野：光通信用



※ 21年度以降の売上高は20年度以前の実績と同一の基準で算定、記載しております。

中期(21-23年度) 企業体質強化



合理化、自動化の取組み
生産性向上、コスト低減のための設備更新と自動機導入 品質向上とコスト低減を両立させる検査自動化の推進 F-IoT による工場分析と改善
デジタル化の取組み
基幹システムの導入による生販活動の管理基盤強化 業務の“視える化”と 事務処理の効率化 インフラ整備、セキュリティ強化

中期(21-23年度) 技術開発

OHIZUMI

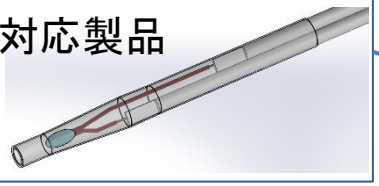
■車両電動化、光通信等の成長分野に対応した技術開発に注力

自動車

電動化領域の拡大に向け、二次電池用・熱マネジメント用・モーター用を強化

モーター用

高耐熱温度対応製品の開発

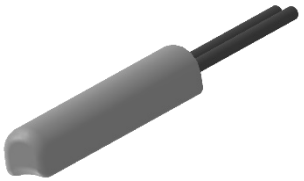


二次電池用

測温精度対応製品
薄型製品の開発

熱マネジメント用

多様化する測温ニーズに対応した製品の開発

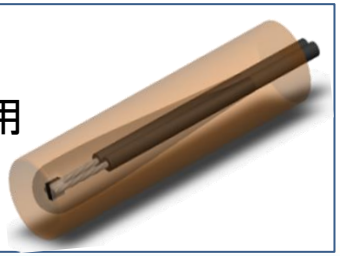


空調・カスタム

主要顧客をターゲットにコスト力を強化

空調用

部品点数低減、安価部材採用
VE製品の開発

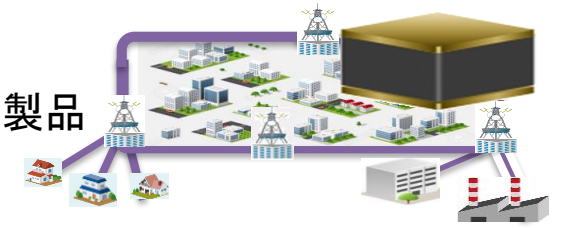


エレメント

光通信の拡大に向けたエレメント開発

光通信用

機器小型化対応製品の開発



フェローテックホールディングス社との協業

OHIZUMI

■両社の得意分野を掛け合わせたシナジーで事業の拡大に取り組む

フェローテック			大泉製作所
熱制御製品技術	新たな製品開発	温度センサ技術	
中国市場の販売チャネル	事業の拡大	当社顧客の販売チャネル	
生産・技術・販売各部門	経営資源活用	生産・技術・販売各部門	

株式会社フェローテックホールディングス
代表取締役副社長　山村丈様

当社
代表取締役社長　佐分淑樹

注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得られた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR　お問い合わせはホームページからお願いします。
http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/